

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
ヘルスアセスメント 方法論 I	1年次 後期	必修	講義	1単位（30時間）	小林 大輔 ※
授 業 概 要					
<p>看護の対象を看護形態機能学の視点から理解できるように、対象者の健康状態(行動)を客観的・主観的に明らかにし、その状態は日常生活にどのような影響があるのか、アセスメントする能力(知識・技術・態度)を習得する。特にIは、身体的側面の主要な観察技術を中心に学び、身体的アセスメントがどのように行われるのかを学ぶ。身体的側面のアセスメント演習では、事例(シミュレーターなど)に対して、インタビューやフィジカルイグザミネーションを行い、得られた事実から日常生活行動におよぼす影響を考え、看護職が行う専門的なアセスメントを経験する。</p>					
到 達 目 標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションの関係性について理解し、説明する。 2. 身体的側面における観察技術を獲得する。 3. 観察により得られた情報には意味があることを理解し、表現する。 4. 事例に応じた、看護形態機能学のフィジカルアセスメントが実施できる。 					
実務経験のある教員					
小林 大輔：集中ケア認定看護師としての実務経験をふまえてヘルスアセスメントを教授する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-15	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護におけるヘルスアセスメントとは 2) ヘルスアセスメントの目的 3) ヘルスアセスメントの枠組み(看護形態機能学) 4) 看護技術としてのヘルスアセスメント 5) ヘルスアセスメント時の倫理的配慮 2. フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションの実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「息をする」 2) 「生命維持～循環動態・神経系～」 3) 「食べる～腹部・嚥下～」 4) 「動く～運動器～」 3. 紙上事例を用いた身体的側面のアセスメント演習 				小林 大輔 ※ 他
学 習 方 法					
講義・グループワーク・紙上事例展開(演習)					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 科目修了試験					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
〔教科書〕 看護がみえるVol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディア 日常生活行動から見るヘルスアセスメント 看護形態機能学を用いて 大久保暢子編集 日本看護協会出版会 看護 形態機能学 生活行動から見るからだ 菱沼典子 日本看護協会出版					